

下^{しも}手^て子^こ林^{ばやし}の観音様

まだ、人家の少なかつたむかしくし、むかしくのことです。

川は乱流といつて、雨が降ると低いところに流れていくような川でした。ですから、村人は大雨の被害に大変苦勞をしました。下手子林の観音様は、その当時、流れ流れて今の境内^{けいだい}に打ち上げられ、いつの間にか砂に埋れてしまいました。



そこは、毎日子供たちが集まって、よい遊び場だったのです。

ある日のこと、子供たちがいつものように、土を掘ったりして遊んでいると「うわーい うわーい 出てきた 出てきた 人形が出てきた」と、いふながら、おもちゃのようにして遊んでいました。大事な仏像とは知らず、いつも子供たちの遊び道具になっていました。福生院^{ふくしょういん}のお坊さんは、その話を聞きつけて、子供たちの遊び場にやってきました。お坊さんは「どれどれ、わしに見せてくれんか」と言われて、手に取って見まわしました。しばらくして「これは大事な観音様だ、粗末にしてはならないぞ」と、つぶ

やきました。子供たちはそれを聞いてびっくりしてしまいました。そして「わしがお寺に持ち帰って祀^{まつ}っておこう」と、言われて「もつたいない もつたいない 南無観世音菩薩^{なむかんぜおんぼさつさま}様」と、言いながら大事に大事に抱えて行き、福生院に安置^{あんち}されました。

ところが、それからというものは、福生院のお坊さんは、病氣ばかりして大変難儀^{なんぎ}をしました。そのうち、誰いうとなく「観音様が子供と遊べるものとの場所に帰りたいサワリだ」と、いう話がひろまりました。村人が心配して、その話をお坊さんに申し上げると 納得されて、さっそく掘り出された場所に、正覚院の鐘^{かね}つき堂を持ってきて移しました。

お坊さんも元氣になり、毎日お参りにこられました。

広い境内は、寒い日も、雨の日も、風の日も、いつでも子供たちが集まって、にぎやかな楽しい遊び場になりました。

願い事がある人たちや、願い事がなかった人たちのお参りの姿もよく見られました。数多い信者たちの絵馬^{えま}や髪の毛^{たば}を束ねた供え物もたえません。

村人から親しまれ尊ばれ、子供たちを見守りながら、これからも、きつときつと平和な安らぎをあたえることでしょう。